

街並み生い立ち 街歩き

港町横浜と佐世保

都市デザイナー

西脇 敏夫

〈佐世保編〉

「街並み生い立ち 街歩き」 執筆テーマ

- ① 街並みの生い立ちを歩く
〈横浜編〉
- ② 大通り公園
- ③ 都心プロムナード
- ④ くすのき広場と横浜市庁舎
- ⑤ 横浜公園と日本大通り
- ⑥ 日本大通りの建物たち
- ⑦ 開港広場
- ⑧ 山下公園通り
- ⑨ 横浜人形の家
- ⑩ 元町、中華街、馬車道、伊勢佐木町
- ⑪ 港の見える丘公園周辺
- ⑫ 外国人墓地、元町公園周辺
- ⑬ 「山手公園」「山手イタリア山庭園」周辺
- ⑭ 歴史を生かしたまちづくり
〈佐世保編〉
- ⑮ 美しい西海の自然に抱かれた街
- ⑯ ささげ大通りに沿って
- ⑰ 佐世保川に沿って
- ⑱ 三ヶ町・四ヶ町・五番街に沿って
(テーマは予定です。変更となる場合もあります)

17. 佐世保川に沿って

佐世保発祥の街

今回は「水と緑の軸線」を歩きます。

佐世保の地形は山が海近くまで迫っており、中心市街地の「佐世保川」は雨が降り出すと急激に水嵩が増して急流になります。日常的には川底の岩盤が露出してコサギやアオサギの餌を探している姿が見られ、川沿いからは「弓張岳」「烏帽子岳」に連なる山並みとその斜面地に広がる住宅地が見渡せます(写真1)。

「市役所」から川沿いを下ると、川岸の桜並木が途切れる「行幸橋」付近の右岸が「元町」で、開港前からの集落「佐世保浦」だったところ。佐世保発祥の地で、当時からこの「行幸橋」で両岸が結ばれていました。



写真1 川沿いの桜並木。正面に弓張岳斜面の住宅地

佐世保橋から国際通り

その下流二つ目の「佐世保橋」は、「佐世保鎮守府」から対岸に渡るために開港当初から設けられた軍事上重要な橋で、「海軍橋」と呼ばれたこともあります。1906(明治39)年には木橋から日本で二番目の鉄筋コンクリート橋に架け替えられました。1934(昭和9)年から行われた国道整備の際には、「鎮守府」までの道路とともに1939(昭和14)年に拡幅整備され、1985(昭和60)年に現在の



写真2 佐世保橋。右の山は弓張岳

橋になっています(写真2)。

橋の架かるこの道路は、朝鮮戦争の頃、各国の兵士が中心街に繰り出し「国際通り」と呼ばれるようになりました。1989(平成元)年に中央分離帯の設置や楠木の増殖が行われ、現在、一部が高架の高速道路に覆われていますが、緑豊かな道路空間になっています(写真3)。



写真3 国際通りの楠並木。現在は上部に高架の高速道路

佐世保市総合医療センター

「佐世保橋」のたもとには、「佐世保市総合医療センター(写真4)」の大きな建物があります。ここは旧「下士官兵集会所」があった場所で米軍に接收され、返還後の1990(平成2)年に「市立総合病院」が建設されました。今年、独立行政法人になって名称が変わっています。



写真4 佐世保総合医療センター。手前の緑は佐世保公園、遠くは弓張岳

佐世保市民文化ホール (旧「凱旋記念館」)

「医療センター」の入口脇にある1923(大正12)年に建てられた旧「海軍佐世保鎮守府凱旋記念館」です(写真5)。レンガと鉄筋コンクリート造の2階建てで、切妻屋根を載せた左右対称の建物です。戦後は米軍に接収されていましたが、返還後「市民文化ホール」として市民が利用する多目的文化施設になっています。今年耐震補強等の改修工事が完了し、内装は新しくなりました。

隣接する「消防本部」の敷地も、「軍転法」により市の土地となり1989(平成元)年に現在の庁舎が完成しています。



写真5 佐世保市民文化ホール

教法寺山門

「市民文化ホール」の「国際通り」の反対側に「教法寺」があります。「佐世保浦」と呼ばれた開港以前の漁村の時代からあった寺ですが、室町から戦国時代中期までは佐世保地域を支配した松浦氏の菩提寺で、山門は佐世保空襲の際も生き残りました(写真6)。山門の前の道が「佐世保浦」時代に「行幸橋」を経て「八幡町」の



写真6 教法寺山門と佐世保浦時代からの行幸橋につながる道

「西方寺」につながっていた道です。佐世保川左岸はその後の都市計画で格子状の道路に変わっています。

海上自衛隊佐世保史料館 (旧「佐世保水公社」)

「教法寺」の先に7階建ての「佐世保史料館(セイルタワー)」があります。その低層部には、1898(明治31)年にこの地に移転してきた海軍士官の福利厚生施設「佐世保水公社」の建物が外観保存されています(写真7)。鉄筋コンクリート造の2階建て、角に3階建て八角形の搭をもつ近代建築物です。



写真7 セイルタワー低層部の旧佐世保水公社

西九州自動車道佐世保道路 佐世保中央インター

「セイルタワー」の先に「西九州自動車道」の巨大なインターチェンジがあります(写真8)。

ここには2006(平成18)年まで「九州文化学園高等学校」がありました。「西九州自動車道」は、市内を高架構造で設置されるために景観などの都市空間に与える影響が問題となりました。しかも「国際通り」では縦



写真8 インターチェンジと入口脇の佐世保バーガー店



写真9 国際通りと高架の高速道路

断方向で通過するために、楠に与える影響なども心配されました(写真9)。生態的な調査も行い、特に影響が大きく移植が必要な木は、駅前の新しい緑地に移植されています。

インターの出口の脇には、「佐世保バーガー」の店があり賑わっています(写真8)。朝鮮戦争の頃、日本で最初に生まれたハンバーガーが「佐世保バーガー」として知られるようになり、佐世保名物として多くの店が特徴を競っています。

米海軍佐世保基地、海上自衛隊佐世保地方総監部

「国際通り」の突き当りは、「米海軍佐世保基地」です(写真10)。

右手には「海上自衛隊佐世保地方総監部」があり、その門は1889(明治22)年に造られた「佐世保鎮守府表門」です(写真11)。



写真10 米軍基地ゲート



写真11 海上自衛隊の門

コラム

トンネルの先に広がる別世界

今回の街歩きのルートからは外れますが、「国際通り」の突き当りを右に曲がると「SSKバイパス」と呼ばれる道路です。この道路が出来る前は、中心市街地から市の西北部の相浦(あいのうら)方面へ行くのに、峠を廻る県道を通らなければなりません。しかし自動車の急増によるこの道の飽和状態

を緩和し、交通の便を良くするために、市が建設省、防衛施設庁と折衝して1969(昭和44)年に完成させた道路です。

この道は、「米軍基地」と「造船所」に接しているため、佐世保の軍港風景を真横に見ながらトンネルを抜けると、別の佐世保らしい世界に誘導してくれます。



写真 a 米軍基地内にある赤レンガ倉庫群

まず左手に「米海軍佐世保基地」が広がり、基地内の赤レンガ倉庫群などが見えます(写真 a)。その先には「SSK(佐世保重工業)」の造

佐世保橋から平瀬橋

「佐世保橋」に戻り川沿いを下りますが、そこからは左岸と右岸の光景が全く異なります。

左岸側には街が広がっています。川沿いの街「湊町」は、明治後期から大正時代には海に近く、多くの舟が付いて港の役割をしていました。市民が海岸と呼んだ川岸には、魚や野菜市場が並んで賑わっていた場所です(写真12)。1919(大正8)年には公設の「青果市場」が開設しています。1985(昭和60)年に川沿いのプロムナードが整備され、その後壁面レリーフが飾られています。

下流側には小さな「名切川」が合流し、その先の小高い「島地山」の上には「佐世保共済病院」があります。前身は1911(明治44)年に開院した「海軍職工共済会立病院」です。その下流の「平瀬橋」のたもとは、移転前



写真 12 かつて海岸と呼ばれ、市場があった湊町の川岸

の「市民病院」がありました。

一方、右岸側に広がる緑のオープンスペースは「佐世保鎮守府」があったところ。川沿いは「軍転法」の返還による市の「佐世保公園」と、米軍が管理する米海軍元帥の名前をつけたグラウンド「ニミッツパーク」があります。川沿いは公園と一体となった遊歩道と階段状の親水護岸が整備され、「弓張岳」の山並みを背景にして美しい水と緑の風景が広がります(写真13)。春には桜の名所となるなど四季折々の自然を感じることが出来、芝生で覆われた広場は市民の憩いの場です(写真14)。秋の休日には日米の交流イベント「西海アメリカンフェスティバル」が開催されて賑わいます。2001(平成13)年のアメリカ同時多発テロの翌年以降中止されましたが再開されています。

遊歩道のほぼ中央には対岸の市街



写真 13 佐世保公園沿いの親水護岸



写真 14 公園の桜の下で憩う市民

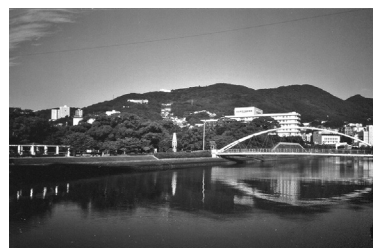


写真 15 アルバカーキ橋と佐世保公園。後ろは弓張岳

地と結ぶ歩行者専用の橋、姉妹都市との友好を願って命名された「アルバカーキ橋」が架かっています(写真15)。

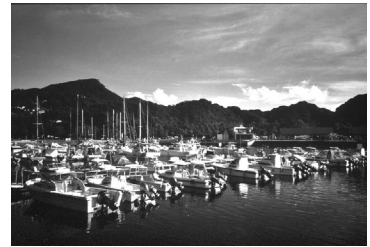
平瀬橋から港へ

最も最下流にある「平瀬橋」上空には「西九州自動車道」の高架橋が通っています。橋の下流側には、平行する赤さびた鉄橋が残されています。1950(昭和25)年から1978(昭

船所が続き、1913(大正2)年につくられ現役で使用されている「旧佐世保海軍工廠の250tクレーン」をはじめ、赤レンガの建物や明治時代に造られたドックが続きます。林立するクレーン群や巨大な船体を間近に見ながら(写真b)、「新鹿子前トンネル」を抜けると、そこには「西海国立公園南九十九島」の拠点となる「九十九島パールシーリゾート」が待ち受けています。緑の小島と穏やかな海のやさしい自然



写真b バイパス脇のSSKドック
(佐世保市港湾部 HP より)



写真c 九十九島パールシーリゾート

に包まれた別世界の風景が広がっています(写真c)。

市街地から車でものの10分も走

ると、都会と軍港の世界から、穏やかで美しい自然の世界へと身を移すことが出来るのです。

和53)年まで「佐世保駅」と「赤崎貯油場」を結んでいた米軍専用の「引き込み線(ジョスコー線)」の名残です。「平瀬橋」から下流の右岸は「米軍基地」です。左岸は市街地で、川沿いの道を少し下ると小さな船溜まりがあり、小型船が停泊しています(写真16)。



写真16 船溜まりと対岸の米軍基地

さらに下流には「市営駐車場」の建物があります。ここで早朝に開催される「朝市」(写真17)は、1971(昭和46)年に上流の「湊町」から移転し



写真17 佐世保朝市

てきました。1929(昭和4)年から2007(平成9)年まで「魚市場」が「駅裏」と呼ばれた所にあった頃は大変に賑わっていたそうですが、周辺には現在も港町の風情のある店が建ち並んでいます(写真18)。ここを「朝市」が利用する以前には、同じく「湊町」にあった「青果市場」が1938(昭和13)年に移転してきて使用していました。しかし手狭になって1963(昭和38)年に佐世保駅前の「干尽(ひづくし)町」に移転し、現在は「佐世保市地方卸売市場青果市場」として2007(平成19)年に新しい建物になって開場しています。



写真18 朝市付近の街並

港に面した「させぼシーサイドパーク」の先には、1989(平成元)年に完成した「鯨瀬ターミナル」と「上五島航路」の栈橋があります。ガラス張りのターミナルビルの4階には

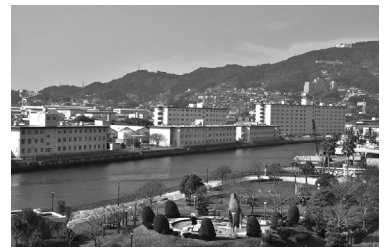


写真19 展望台から見たシーサイドパークと対岸の米軍基地。後ろは弓張岳

展望室があり、港を見渡すことが出来ます(写真19)。

〈参考文献〉

1. 「地図で見る佐世保」(編著: 平岡昭利 発行: 芸文堂)
2. 「佐世保の歴史」(編纂: 佐世保市史編纂委員会 発行: 佐世保市)
3. 「佐世保辞典」(編纂: 佐世保市史編纂委員会 発行: 佐世保市)
4. 「佐世保年表」(編纂: 佐世保市史編纂委員会 発行: 佐世保市)

にしわき・としお

早稲田大学・同大学院建築学科で学んだ後、大高建築設計事務所、武建設計研究所で多摩NT計画、港北NT計画、再開発計画、観光開発計画、建築設計などに携わり、36歳の時、横浜市役所に招聘され都市デザイン室長、都市企画部長、都心部整備部長などを歴任し、22年半に亘り横浜市の都市デザインを展開した。59歳の時、佐世保市役所に招聘され、7年間佐世保市の都市デザインに取り組む。

二つの自治体、コンサルタント、事業者など、異なる立場から都市デザインを実践し、公的委員や大学非常勤講師を歴任。講演、論文、著書、活動成果に対する受賞などがある。